

# 2015年(平成27年)3月期 第2四半期 決算説明会

知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社  
2014年11月28日

## 目次

- |                        |      |
|------------------------|------|
| 1. 2015年3月期 第2四半期の決算概況 | P.3  |
| 2. 2015年3月期 業績見通し      | P.12 |
| 3. 中期経営計画の進捗           | P.18 |
| 4. (参考資料)セグメント別概況      | P.26 |

## 2015年3月期 第2四半期の決算概況

3

## ■海外事業が牽引し増収となるが、貸倒引当金の計上等もあり減益

(単位:億円)

	13/09	14/09	増減額	前年 同期比	期初見通し (通期)	進捗率
売上高	3,582	3,727	+145	104%	7,830	48%
売上総利益	449	444	△4	99%	947	47%
<利益率>	12.5%	11.9%	△0.6%	—	12.1%	—
販売管理費	362	364	+2	101%	757	48%
営業利益	86	79	△7	92%	190	42%
経常利益	98	91	△7	92%	215	42%
四半期純利益	72	66	△5	92%	142	47%
為替レート	@98.6	@103.0	@4.4 円安		@103.0	

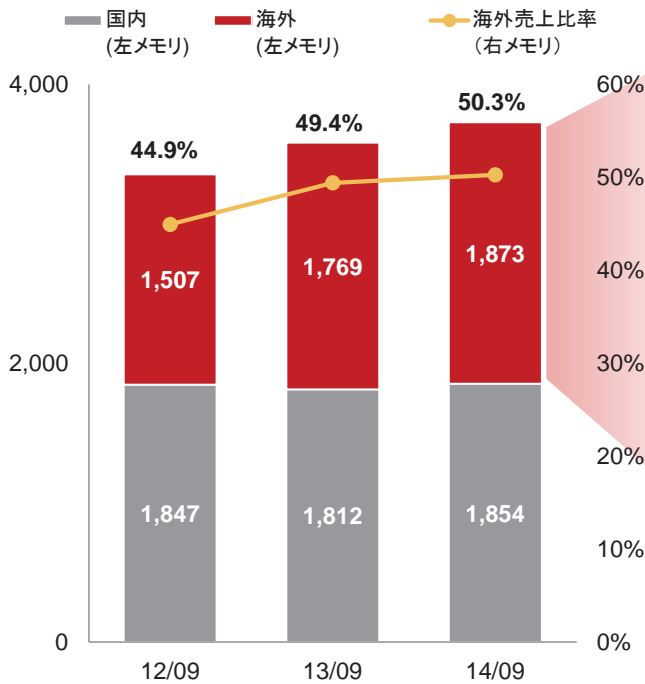
(1円あたりの為替変動による売上高および営業利益への影響)

1円のドル円レート変動による影響額 14/09期実績に与えた影響額

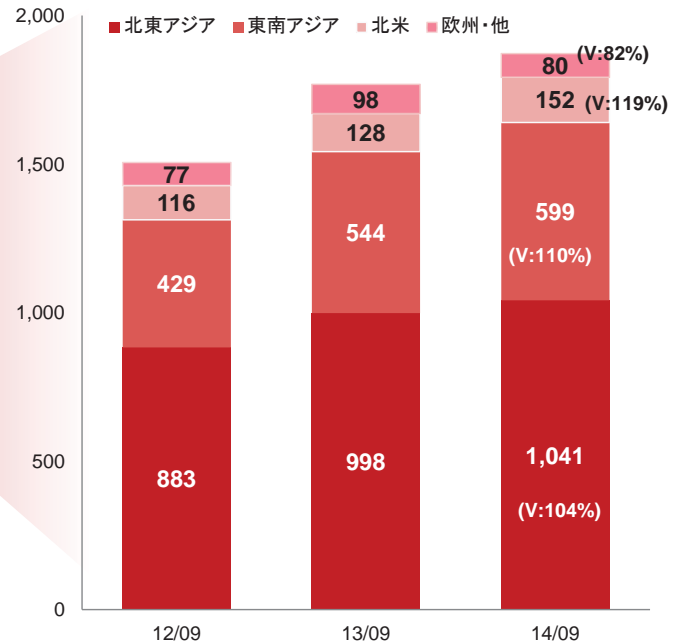
売上高	約16億円	+約72億円
営業利益	約0.5億円	+約2億円

- 欧州除く全地域で売上が増加し、海外売上高比率が上昇(50%超へ)
- 北東アジアにおいて、スマホ・ノートPC・ゲーム機器関連樹脂および自動車関連商材が好調に推移

国内・海外売上高(億円、%)



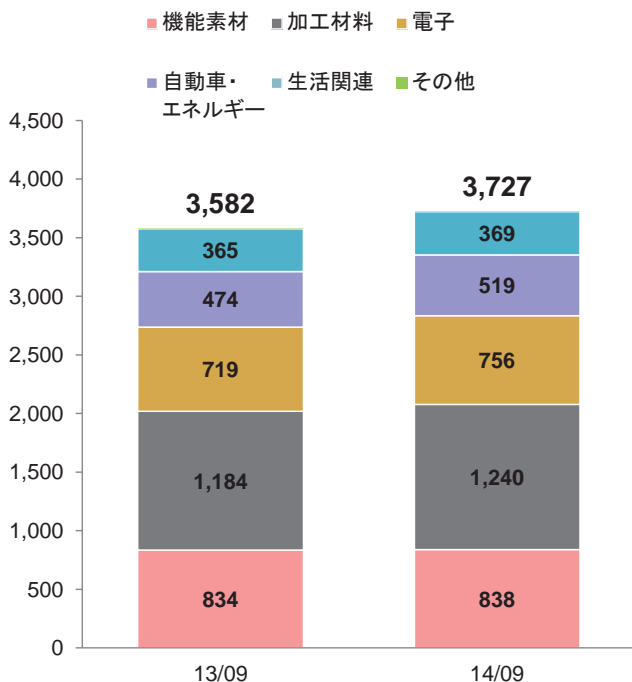
海外売上高の地域別内訳(億円)



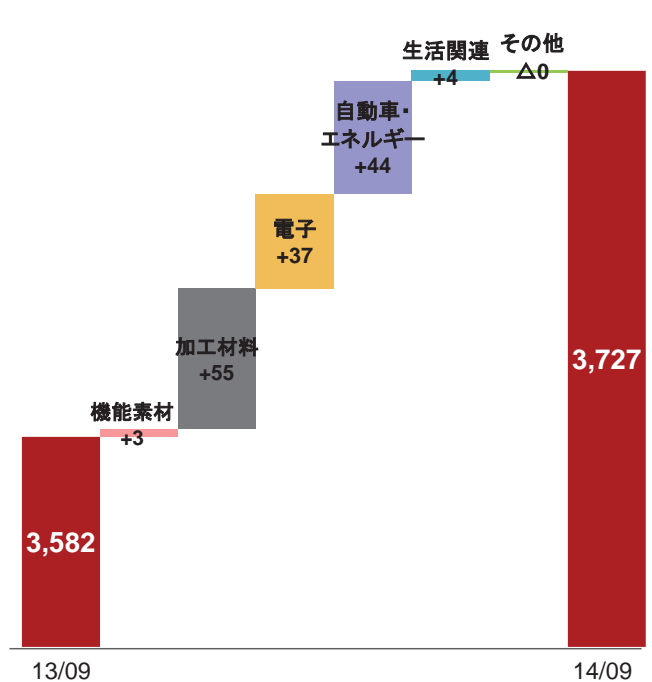
※V: 前年同期比

- 国内外においてOA・家電用途向け合成樹脂販売が好調
- 国内は新車種への対応、海外は自動車生産台数増加等を受け自動車関連部材販売が好調

セグメント別 売上高(億円)



セグメント別 売上高増減(億円)

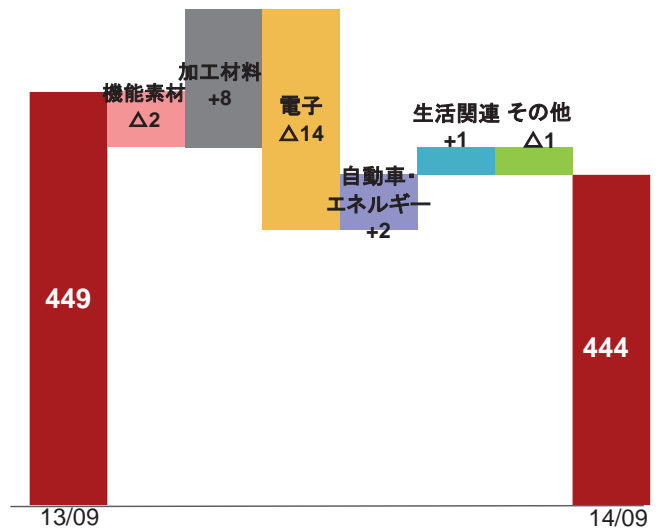
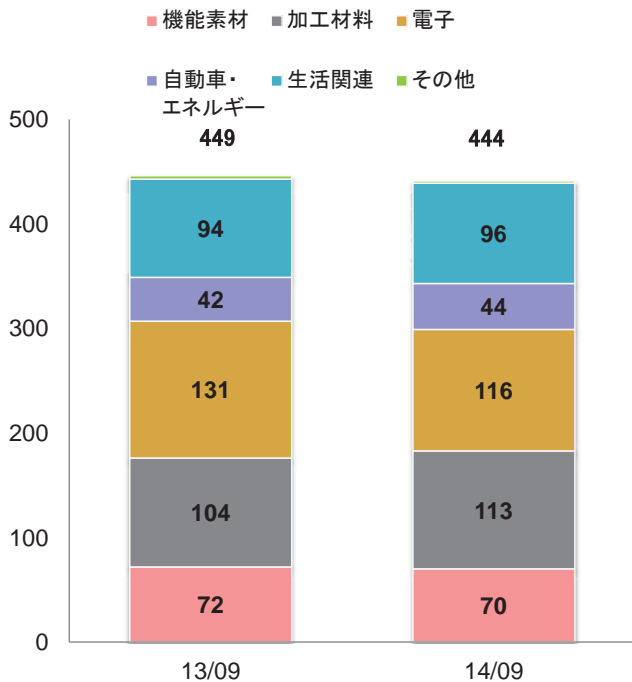


※13/09実績は、15/03期からの組織変更を考慮した数値に組み替えております。  
 (電子セグメントに属していたネットワーク技術開発チームを自動車・エネルギーセグメントへ移管)

■電子セグメントにおいてプロダクトミックスの悪化等により利益率が低下し減益

セグメント別 売上総利益(億円)

セグメント別 売上総利益増減(億円)

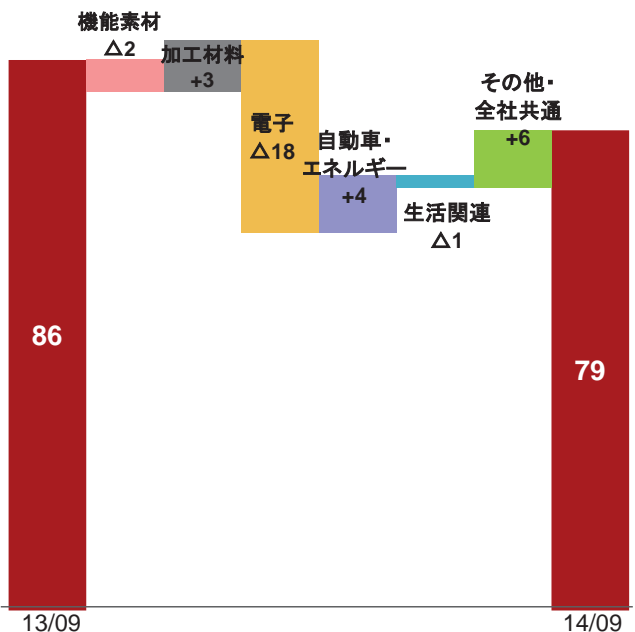
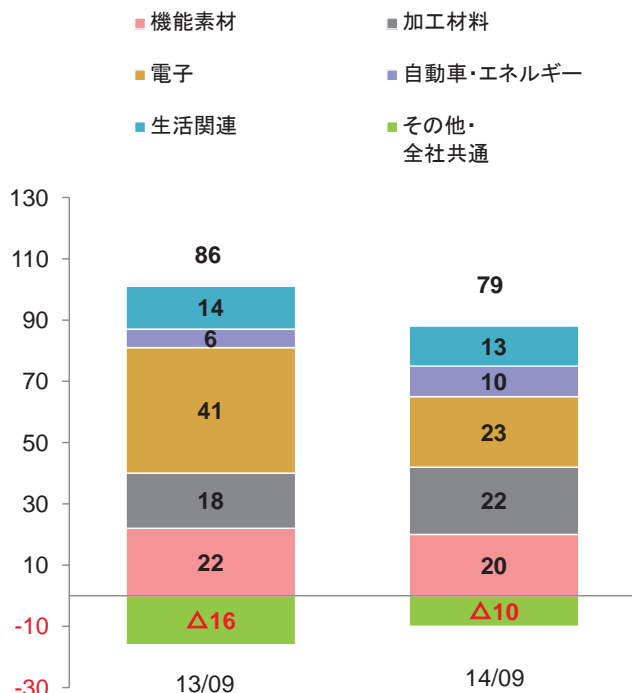


※13/09実績は、15/03期からの組織変更を考慮した数値に組み替えております。  
(電子セグメントに属していたネットワーク技術開発チームを自動車・エネルギーセグメントへ移管)

■電子セグメントにおいて、台湾子会社で貸倒引当金計上  
■退職給付債務の数理計算上の差異の償却に伴う退職給付費用が減少

セグメント別 営業利益(億円)

セグメント別 営業利益増減(億円)



※13/09実績は、15/03期からの組織変更を考慮した数値に組み替えております。  
(電子セグメントに属していたネットワーク技術開発チームを自動車・エネルギーセグメントへ移管)

- 林原は、夏場の天候不順等の影響によりAA2Gの販売が低調に推移したものの、トレハ等の他機能性糖質の販売が国内外で好調に推移し増収増益(米カーギル社とトレハの販売代理店契約を締結。欧米での拡販目指す)

(単位:百万円)

社名		売上高	前期比	営業利益	前期比	当期純利益	前期比
単体	長瀬産業	224,736	102%	1,987	117%	7,434	116%
製造会社	林原	11,755	100%	2,536	111%	2,327	96%
	ナガセケムテックス	12,912	98%	1,075	82%	843	106%
	製造会社計(注)	46,645	101%	3,706	108%	3,110	121%
国内販売会社	ナガセプラスチック	16,750	109%	258	114%	168	123%
	ナガセケミカル	7,701	96%	95	94%	58	102%
	西日本長瀬	3,168	100%	88	126%	53	127%
	国内販売会社計(注)	41,085	99%	488	74%	379	87%
海外販売会社	長瀬香港有限公司	33,783	103%	680	75%	601	76%
	広州長瀬有限公司	13,602	117%	485	137%	316	136%
	上海華長貿易有限公司	16,163	107%	466	95%	341	83%
	海外販売会社計(注)	170,045	105%	2,759	71%	2,317	64%

※注) 各カテゴリの合計は、対象会社の単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません。

Copyright © 2014 NAGASE & CO., LTD.

9

- 自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.2ポイント減少49.5%→49.3%

資産				負債及び純資産 (単位:億円)			
	14/03	14/09	増減額		14/03	14/09	増減額
<b>流動資産</b>	<b>3,063</b>	<b>3,279</b>	<b>+216</b>	<b>流動負債</b>	<b>1,636</b>	<b>1,865</b>	<b>+229</b>
現金・預金	349	331	△18	支払手形・買掛金	1,050	1,160	+110
受取手形・売掛金	2,029	2,179	+149	短期借入金	354	385	+31
棚卸資産	574	652	+78	1年内償還予定の社債	—	100	+100
その他	109	115	+6	その他	232	219	△12
<b>固定資産</b>	<b>1,917</b>	<b>2,015</b>	<b>+98</b>	<b>固定負債</b>	<b>826</b>	<b>764</b>	<b>△61</b>
有形固定資産	639	640	+1	長期借入金	271	271	+0
無形固定資産	530	504	△25	社債	300	200	△100
投資・その他の資産合計	748	870	+121	繰延税金負債	125	162	+37
投資有価証券	662	782	+119	その他	129	129	+0
その他	85	87	+2	<b>負債合計</b>	<b>2,462</b>	<b>2,630</b>	<b>+167</b>
				<b>純資産</b>	<b>2,518</b>	<b>2,665</b>	<b>+146</b>
				株主資本	2,193	2,235	+42
				その他の包括利益累計額	273	376	+102
				為替換算調整勘定	22	52	+30
				その他有価証券評価差額金	247	321	+73
				その他	3	2	△1
				少数株主持分	51	53	+1
<b>資産合計</b>	<b>4,981</b>	<b>5,295</b>	<b>+314</b>	<b>負債・純資産</b>	<b>4,981</b>	<b>5,295</b>	<b>+314</b>

Copyright © 2014 NAGASE & CO., LTD.

10

■ 利益創出により営業活動によるキャッシュ・フローは+9億円となったが、主に製造子会社の設備投資等による投資支出や、配当金の支払い等による財務支出により、現金および現金同等物は12億円減少

## キャッシュ・フローの状況

(単位:億円)

	14/09	主な内訳	13/09
営業活動によるキャッシュ・フロー	+9	税前利益+93、減価償却費+45 運転資金▲81、法人税等▲43	+43
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲27	有形固定資産の取得▲32 無形固定資産の取得▲5 投資有価証券の取得▲2 有形固定資産の売却+5	▲45
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲3	短期借入金による収入+21 配当金の支払▲17	▲34
現金および現金同等物に係る換算差額	+8		▲2
現金および現金同等物の増加額(▲減少額)	▲12		▲38
現金および現金同等物の期首残高	338		458
その他の変更による影響額 (新規連結および決算期変更に伴う増減)	+0		+1
現金および現金同等物の期末残高	325	日本 168、グレートチャイナ 100 アセアン 35、欧州 15、北米 7	420

2015年3月期 業績見通し

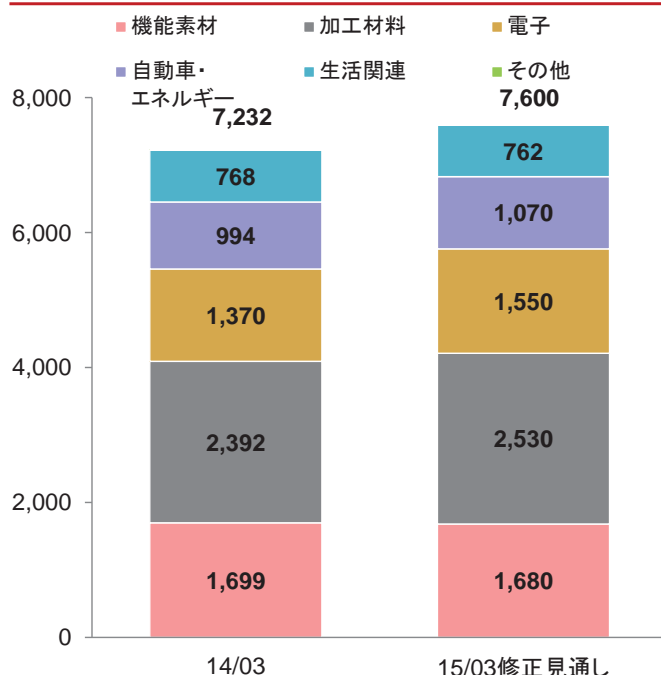
■ 下期は、国内及びアジアでの自動車関連事業の減速や液晶用フィルム関連において厳しい状況が続く見通しであるものの、北米での自動車関連事業やOA・家電向け樹脂事業および林原製品の海外販売等が好調に推移する見通し

(単位:億円)

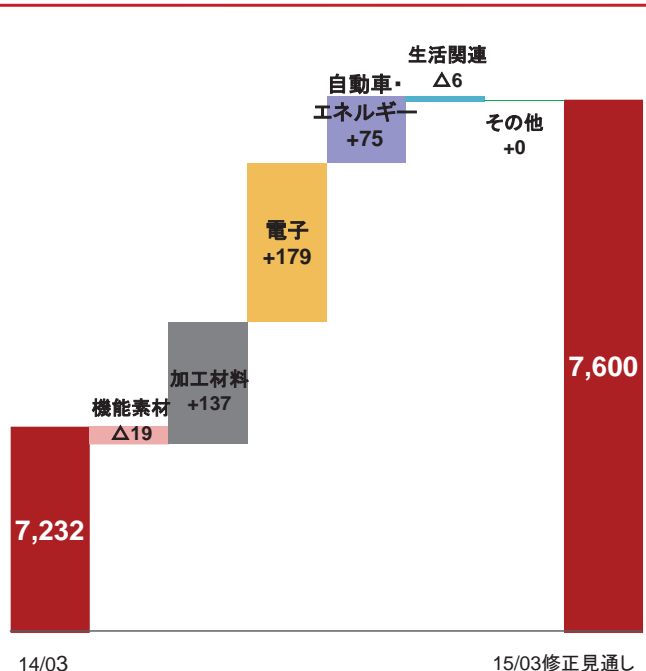
	14/03	15/03見通し		
	実績	期初見通し	通期見通し(修正)	前期比
売上高	7,232	7,830	7,600	105%
売上総利益	889	947	911	102%
<利益率>	12.3%	12.1%	12.0%	—
販売管理費	731	757	743	102%
営業利益	157	190	168	106%
経常利益	179	215	187	104%
当期純利益	116	142	128	110%
為替レート	@100.5	@103	@103	—

■ 国内外における樹脂販売事業やガラス薄型加工ビジネスの復調などにより前期と比較し増収見通し

セグメント別 売上高(億円)



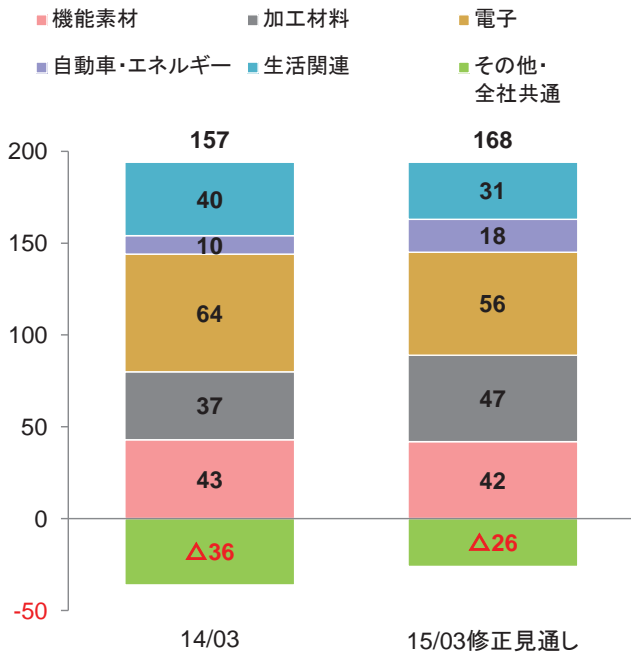
セグメント別 売上高増減(億円)



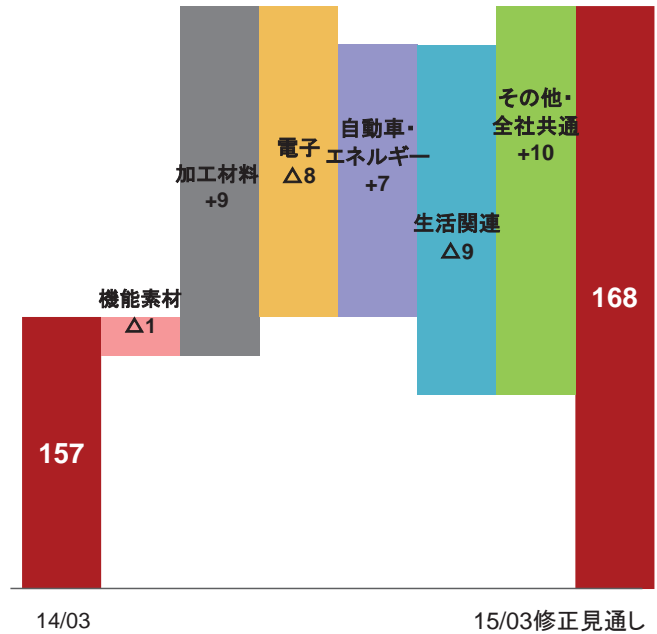
※14/03期実績は、15/03期からの組織変更を考慮した数値に組み替えております。  
(電子セグメントに属していたネットワーク技術開発チームを自動車・エネルギーセグメントへ移管)

- 生活関連セグメントは、林原製品販売は好調に推移するも林原製品の海外マーケティング開発活動に係る費用の計上や医薬関連事業およびビューティケア製品事業の低調等により減益
- 退職給付債務の数理計算上の差異の償却に伴う退職給付費用が減少し、損益改善

セグメント別 営業利益(億円)



セグメント別 営業利益増減(億円)

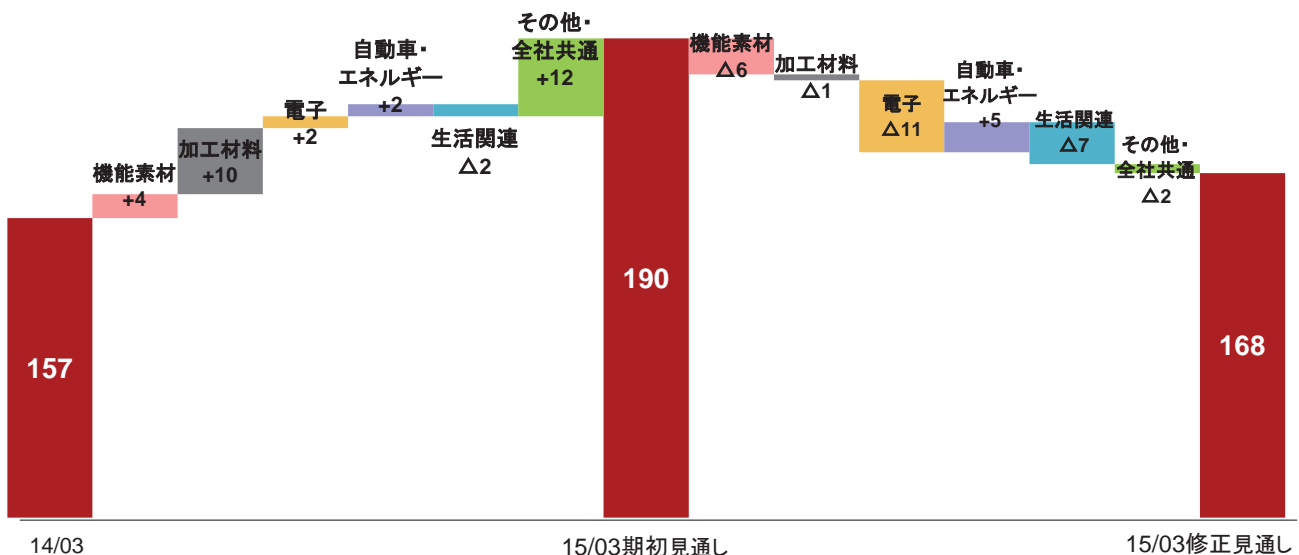


※14/03期実績は、15/03期からの組織変更を考慮した数値に組み替えております。  
(電子セグメントに属していたネットワーク技術開発チームを自動車・エネルギーセグメントへ移管)

【修正要因】

- 機能素材:消費税率引き上げの想定以上の反動等により、建築・建材向けなど国内での塗料原料事業が低調
- 電子:売上債権に疑義が生じたことにより貸倒引当金計上、液晶用フィルム関連の販売が低調
- 自動車・エネルギー:国内外において自動車関連部材販売が好調に推移
- 生活関連:夏場の天候不順の影響とみられる美白化粧品需要減少等により、AA2Gの販売が低調

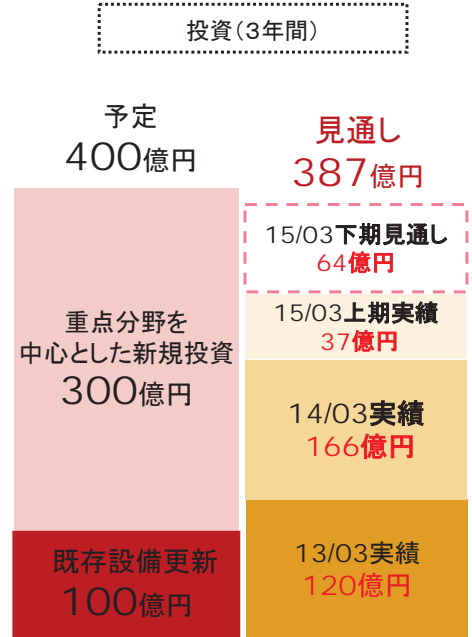
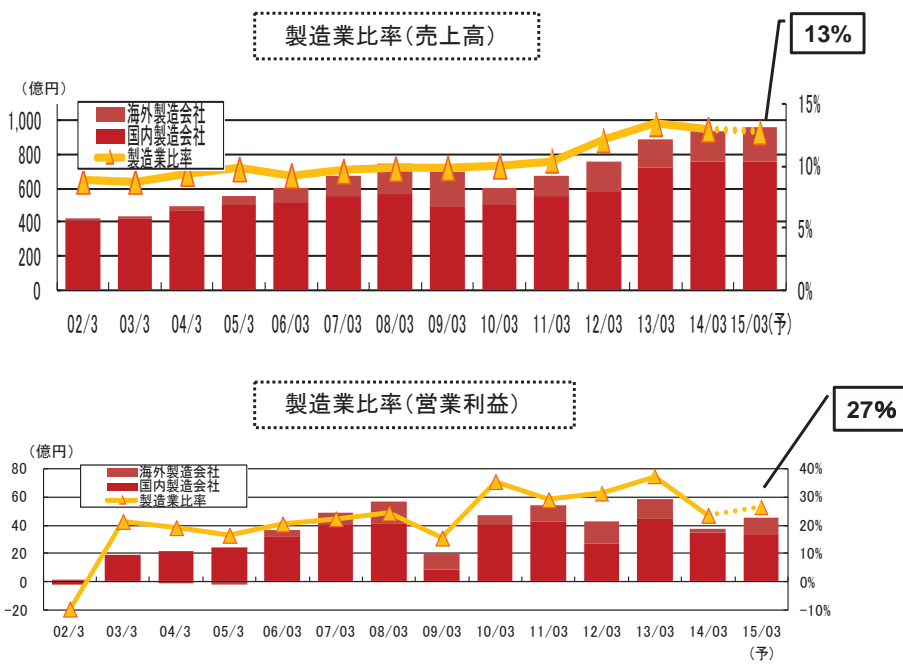
セグメント別 営業利益増減(億円)



※14/03期実績は、15/03期からの組織変更を考慮した数値に組み替えております。  
(電子セグメントに属していたネットワーク技術開発チームを自動車・エネルギーセグメントへ移管)



製造機能、研究開発機能、技術・情報力、グローバルネットワークを強化する投融資の実行により、独自性・優位性を創出し、事業の質の向上と企業価値の向上を図っております。



中期経営計画の進捗

## 位置づけ

## “CHANGE”の加速

## 基本戦略

事業と運営の質の向上を加速 (Speed Up)

重点分野のバリューチェーンにおいてナガセグループの総合力を発揮 (Step Up)

独自のソリューションをグローバルに展開し、持続的成長 (Sustainable Growth)

## 重点分野

「バイオ」、「環境・エネルギー」、「エレクトロニクス」技術を活用した分野

## 重点施策

グローバル化の推進、高付加価値事業の創造、運営基盤の強化

## 【重点分野における事業強化】

## 1. バイオ関連技術を活用した分野

- ・林原製品の海外での販売体制を構築、代理店政策の見直しにより新規顧客を開拓
- ・ナガセR&Dセンターの研究対象をバイオ技術の基盤技術開発と同技術の活用による製品・サービス開発に注力

→事業の柱(林原)を持ち、今後引き続き強化していくステージ

## 2. 環境・エネルギー関連技術を活用した分野

- ・キャプテックスのリチウム2次電池モジュールは試行錯誤を重ね、市場・用途に合わせカスタマイズした開発の途上

→事業の核を模索しているステージ——立ち上がり遅れによる収益化のズレ

## 3. エレクトロニクス関連技術を活用した分野

- ・スマートフォン・タブレット端末向けにグローバルな提案・調達活動により部材販売が好調に推移
- ・中国の長瀬精細化工(無錫)有限公司にて研究開発棟が稼働開始

→事業の核はあり、次の核が必要なステージ——地域間での展開格差や、製造子会社の収益性の落ち込み

## 【運営基盤の強化】

- ・「投資ガイドライン」の運用を通じ、投資の質の向上を図るとともに、不採算事業から撤退
- ・海外現地法人に新基幹システムを順次導入し、連結運営体制を強化

## ■目標数値に対し遅れてはいるが、達成に向けて重点分野を軸に取組中

## 【実績および見通し値】

	2012年度実績	2013年度実績	2014年度見通し (2014年11月公表)	2014年度当初目標 (2011年5月公表)	差額
売上高	6,662億円	7,232億円	7,600億円	8,000億円	▲400億円
営業利益	155億円	157億円	168億円	300億円	▲132億円
ROE	6.5%	4.9%	5.0%	8.0%	▲3.0%

## 主な要因

## グループ製造会社の収益性

製造子会社の立て直し遅れ → 時間軸はずれたが、収益改善方向へ  
 外部環境（市場）の変化による収益低下 → 中国への需要移動への対応、製品/顧客の多様化

## グローバル展開の分野・地域間での展開格差

自動車関連は中国・北米を中心に概ね予定通り  
 生活関連は林原を中心に海外での販売体制の構築進む。新規顧客はこれから展開

## 新規事業の立ち上がりの遅れ

環境・エネルギー分野が、開発ステージに停滞

## ■中期経営計画策定の課題

長期的な視野

事業部・グループ会社ごとのバラツキ

従来の延長線上では、低位成長にとどまる

抜本的な改革が必要

目指す将来像を明確にし、  
 グループ内で共有すべき基本的考え方や行動のあり方も含めた  
長期の経営ビジョンの設定

経営陣による  
 長期ビジョン策定プロジェクト

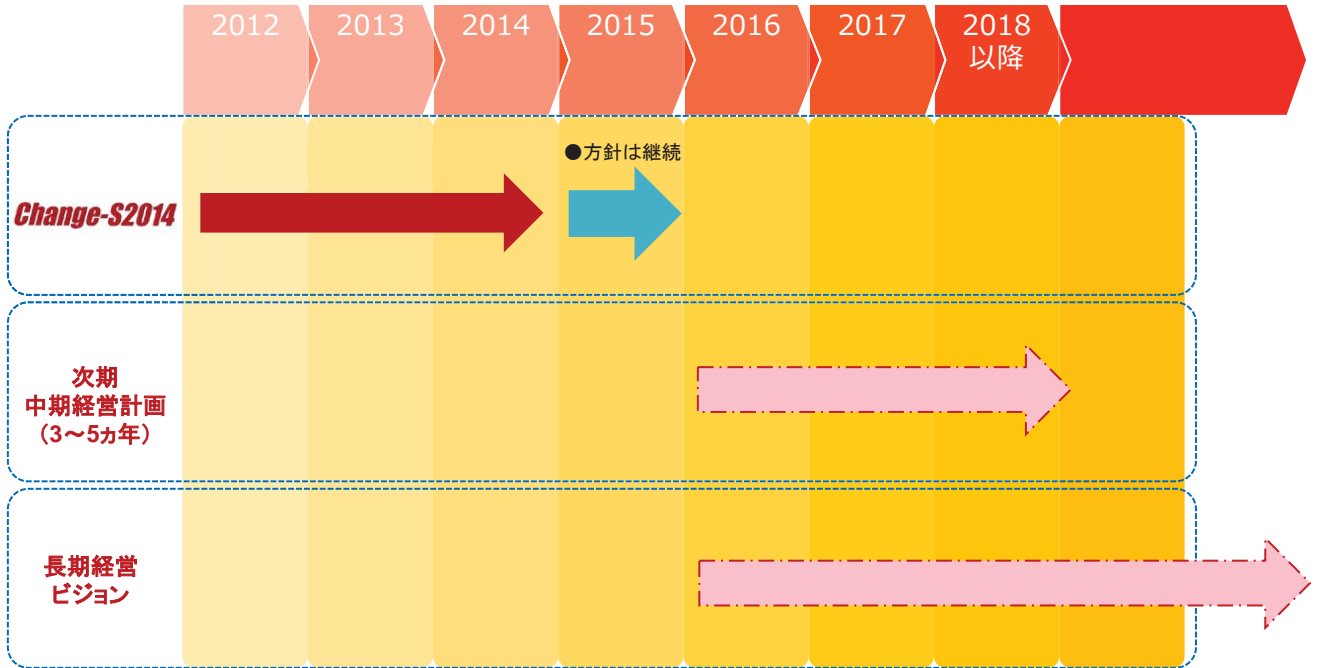
社長直轄による  
 グローバルブランディング・プロジェクト

■2015年度は単年度計画とし、現中期経営計画「*Change-S2014*」の方針を継続

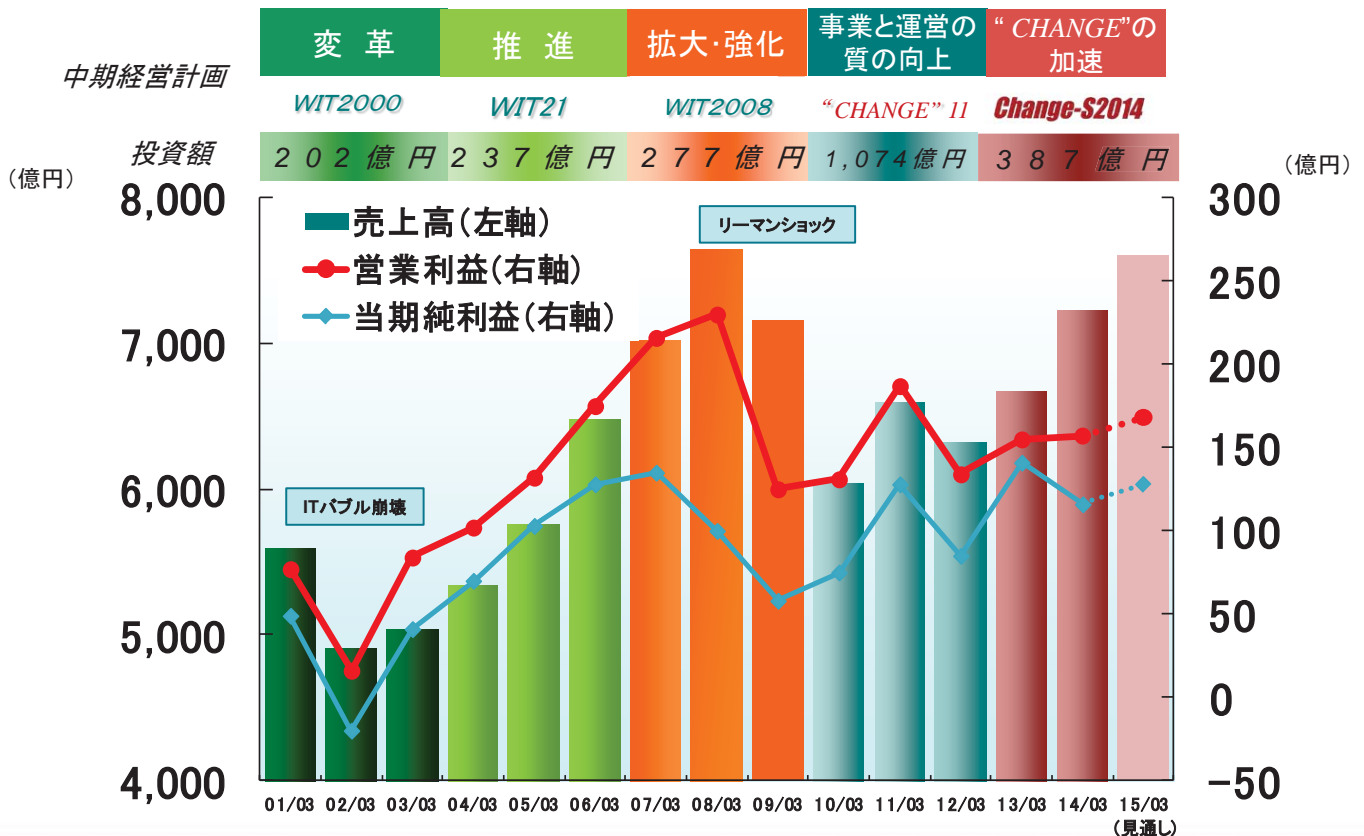
ナガセグループは、海外展開が加速しており、今以上に多様化が進む→グループを束ねる更なる求心力・一体感が必要

経営理念「誠実に正道を歩む」のもと、長期的に目指す未来像を共通認識し企業価値向上に向け進む必要有

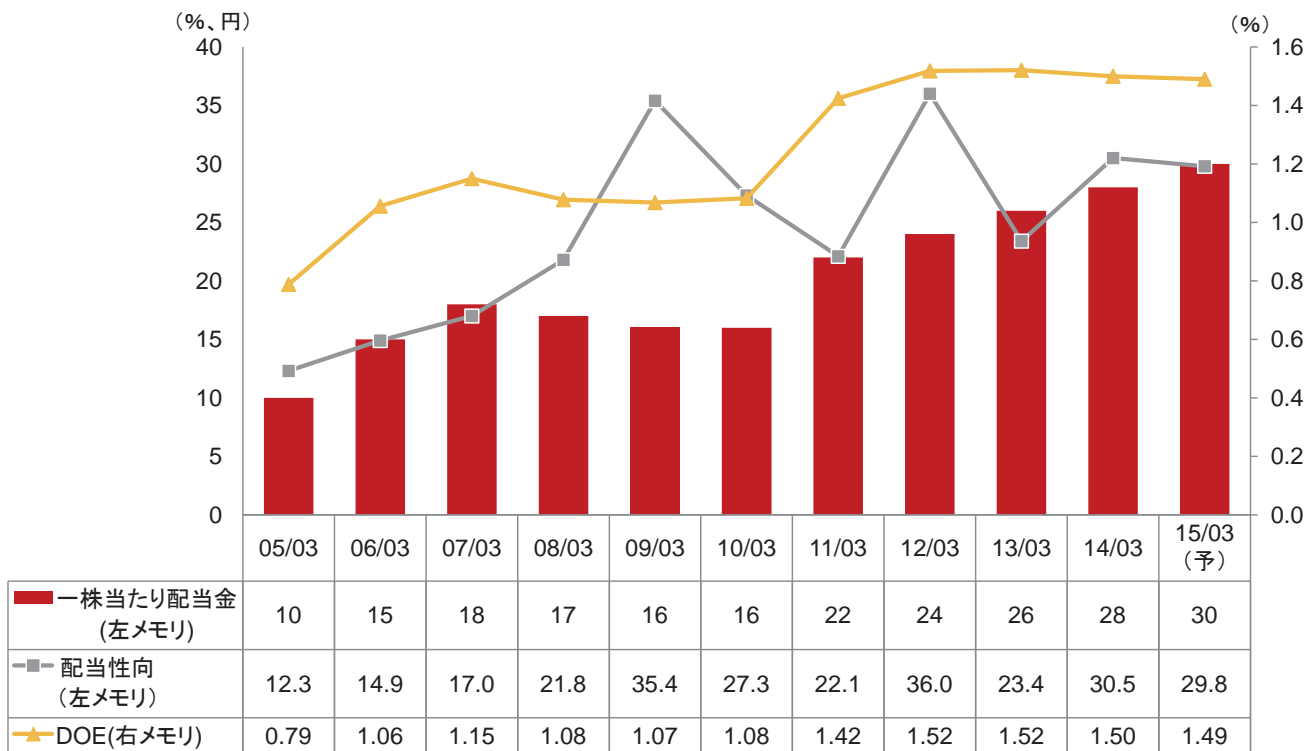
創業200年(2032年)、更にもその先へ向けた長期経営ビジョンを策定予定



■企業価値向上に向け、低位安定からの脱却へ



■安定配当をベースに一株当たり配当額の向上へ(5期連続増配見通し)



(参考資料)セグメント別概況

<所在地別売上高・営業利益>

	(億円)						
	14/03期		15/03期				
	中間	通期実績	中間	前年同期比	通期修正見通し	前期比	
売上高	国内	816	1,668	812	100%	1,642	98%
	海外	219	438	221	101%	430	98%
	連結調整	▲202	▲407	▲195	—	▲392	—
	合計	834	1,699	838	100%	1,680	99%
営業利益	国内	18	36	15	84%	33	92%
	海外	3	7	5	135%	9	132%
	連結調整	▲0	▲0	▲0	—	▲1	—
	合計	22	43	20	90%	42	97%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2015年3月期 第2四半期 実績

**売上高** 838億円(100%)

◆機能化学品事業は、建築・建材用途塗料原料が低調も、自動車・家電向けウレタン事業の好調等により増収

◆スペシャリティケミカル事業は、国内においてフッ素メーカーや金属加工油剤メーカーへの国内販売、封止材関連の輸出が堅調に推移し全体で横ばい

**営業利益** 20億円(90%)

◆国内製造事業の低調等により減益

2015年3月期 見通し

◇国内は、下期に建築・建材用途の塗料原料が復調  
◇海外は、下期に欧州での塗料製造工程消耗品販売が復調  
→上期の影響を受け、全体で減収減益となる見通し

<所在地別売上高・営業利益>

	(億円)						
	14/03期		15/03期				
	中間	通期実績	中間	前年同期比	通期修正見通し	前期比	
売上高	国内	777	1,584	791	102%	1,609	102%
	海外	714	1,429	757	106%	1,549	108%
	連結調整	▲306	▲621	▲308	—	▲628	—
	合計	1,184	2,392	1,240	105%	2,530	106%
営業利益	国内	7	18	10	139%	21	120%
	海外	10	18	11	111%	24	137%
	連結調整	+0	+0	▲0	—	+0	—
	合計	18	37	22	119%	47	126%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2015年3月期 第2四半期 実績

**売上高** 1,240億円(105%)

◆色材事業は、顔料・添加剤の売上は堅調に推移したが、トナー用材料等の売上の低調等により減収

◆OA・家電用途関連事業は、合成樹脂原料の販売が北東アジアで増加、国内及び東南アジアにおいても微増となり増収

◆機能性フィルム・シート及び樹脂成型品関連事業は、合成樹脂原料、液晶テレビ反射板用材料および導電性高分子材料等が好調に推移し増収

**営業利益** 22億円(119%)

◆売上が増加したことや、一部製造子会社の収益の改善等により増益

2015年3月期 見通し

◇国内外において樹脂販売が好調に推移  
◇感熱材料および樹脂コンパウンド製造子会社において収益改善  
→全体で増収増益となる見通し  
(特に北東アジアが好調に推移)

<所在地別売上高・営業利益>

	14/03期		15/03期				
	中間	通期実績	中間	前年同期比	通期修正見通し	前期比	
	(億円)						
売上高	国内	704	1,340	717	102%	1,442	108%
	海外	410	760	408	100%	853	112%
	連結調整	▲395	▲730	▲369	—	▲745	—
	合計	719	1,370	756	105%	1,550	113%
営業利益	国内	25	43	19	76%	36	84%
	海外	15	22	3	25%	21	87%
	連結調整	+0	▲3	▲0	—	▲1	—
	合計	41	64	23	56%	56	87%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん償却含む)  
※14/03期は15/03期からの組替変更を考慮した数値になります。  
(電子セグメントに属していたネットワーク技術開発チームを自動車・エネルギーセグメントへ移管)

2015年3月期 第2四半期 実績

**売上高** 756億円(105%)

- ◆電子化学品事業は、重電・弱電向け変性エポキシ樹脂関連および液晶パネル製造用薬液等が微減となり減収
- ◆電子資材事業は、LED関連部材およびガラス薄型加工ビジネス並びにタッチパネル用部材販売等が好調に推移し増収

**営業利益** 23億円(56%)

- ◆国内販売および製造事業における利益率の低下や台湾の子会社における貸倒引当金計上等により減益

2015年3月期 見通し

- ◇変性エポキシ樹脂関連が下期堅調に推移
- ◇ガラス薄型加工ビジネスが復調
- 貸倒引当金の計上が響き、全体で増収減益となる見通し

<所在地別売上高・営業利益>

	14/03期		15/03期				
	中間	通期実績	中間	前年同期比	通期修正見通し	前期比	
	(億円)						
売上高	国内	247	519	270	109%	554	107%
	海外	306	645	348	114%	729	113%
	連結調整	▲79	▲170	▲99	—	▲214	—
	合計	474	994	519	109%	1,070	108%
営業利益	国内	▲3	▲6	▲0	—	▲2	—
	海外	9	17	11	114%	20	116%
	連結調整	▲0	▲0	+0	—	+0	—
	合計	6	10	10	164%	18	175%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。  
※14/03期は15/03期からの組替変更を考慮した数値になります。  
(電子セグメントに属していたネットワーク技術開発チームを自動車・エネルギーセグメントへ移管)

2015年3月期 第2四半期 実績

**売上高** 519億円(109%)

- ◆自動車関連事業は、国内で一部車種向けの売上が増加したことや、北東アジア及び北米など海外における売上の増加等により増収
- ◆エネルギー事業は、太陽光発電関連商材やリチウムイオン電池向け商材の売上の増加等により増収

**営業利益** 10億円(164%)

- ◆売上の増加および国内製造事業の収益改善等により収益増益

2015年3月期 見通し

- ◇自動車関連事業において、国内・アジアは不透明感があるものの、下期も引き続き北米は好調を持続
- ◇エネルギー事業関連製造子会社において損益改善
- 全体で増収増益となる見通し

## &lt;所在地別売上高・営業利益&gt;

	14/03期		15/03期				
	中間	通期実績	中間	前年同期比	通期修正見通し	前期比	
	(億円)						
売上高	国内	457	953	459	101%	947	99%
	海外	52	109	57	110%	123	112%
	連結調整	▲144	▲294	▲148	—	▲309	—
	合計	365	768	369	101%	762	99%
営業利益	国内	29	67	28	98%	60	90%
	海外	1	3	0	56%	2	68%
	連結調整	▲16	▲30	▲16	—	▲31	—
	合計	14	40	13	92%	31	78%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産償却含む)

## 2014年3月期 第2四半期実績

## 売上高

369億円(101%)

- ◆ライフ&ヘルスケア製品事業は、食品素材分野において国内・海外ともにトレハロース等を中心に堅調に推移し、トレハロース分野での原料販売が増加したこと等により増収
- ◆ビューティケア製品事業は、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響や新商品の上市件数が少なかったこと等により減収

## 営業利益

13億円(92%)

- ◆ビューティケア製品事業の低調等が影響し、減益

## 2015年3月期 見通し

- ◇林原製品は、上期に引き続きトレハロースは好調に推移しAA2Gも下期復調
- ◇医薬中間体関連の不振等により製造子会社において減益  
→全体で減収減益となる見通し

## 知恵をビジネスにする技術・情報企業

## 長瀬産業株式会社

<http://www.nagase.co.jp>

当プレゼンテーション資料には、2014年11月28日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。